

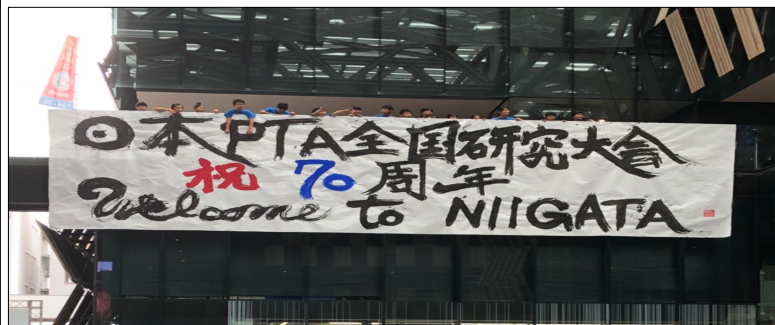


PTA新聞 おきなわ

発行
(一社) 沖縄県PTA連合会

〒900-0002
那覇市曙2-26-27
TEL (098) 867-3582
FAX (098) 867-0309

責任者 石川 謙



第66回日本PTA全国研究大会が平成30年8月24～25日二日間にわたり新潟県で開催されました。全国から約八千人が新潟に集い、子どもたちの健やかな成長を願い米百俵の精神で学びあいました。

教育は未来を拓く 新潟発 米百俵の精神

メインテーマ

- ☆たくましい子どもを育て、命を守る。
- ☆社会の変化に対応し、故郷に誇りを持てる子どもを育てる。
- ☆魅力的な学校づくり・地域づくりとPTA活動。
- ☆会員のネットワークを広げ、学びを深める。



少子高齢化社会が大きな社会問題となり、児童・生徒の減少や学校の統廃合、またネット依存・いじめなど情報環境の変化に伴うトラブルも多くなっています。初日の分科会では、子どもたちの未来を守るために各テーマに分かれて、新潟県内の10箇所の会場で、教育や子育ての意義を熱く討議されました。

二日目の全体会では、俳優の高橋克実さんによる記念講演があり、夢をあきらめないこと、地元を大切にすること、こだわることなど俳優として経験した色んなお話を聞きました。子どもたちのパフォーマンスも素晴らしい感動の多い全体会となりました。今年は異常気象の影響なのか、各地で気温が40度を越えるということがあります。大会中新潟でも40度を記録し沖縄でも体験できない

い高温日となりました。

「米百俵の精神」

北越戊辰戦争に敗れ、焦土と化した長岡のまちに、支藩である三根山藩から見舞いとして送られた米百俵。長岡藩大参事の小林虎三郎はこの米を藩士らに分配せず、国漢学校設立資金の一部に充てたといわれている。



百俵の米も、食べばたちまちなくなるが、教育にあてれば、明日の一万、米百俵となる。藩士を論じ、救援米を売り、国漢学校を建て、故郷の未来を教育に託した小林虎三郎の思い。

広報委員 知念 一美

特別第2分科会

「地域学校協働活動推進のためにPTAが果たす役割」参加者全員の意見交流で次の一手を考えよう」を課題に、基調講演や参加者との討論会が行われました。講演者でパネリストでもある西川由香氏から、PTAに期待する事として次のような事を挙げていました。地域学校協働活動の更なる推進に向け、PTA活動が地域の人々にも開かれたものとなって多くのステークホルダーを巻き込んであらゆる教育資源を総動員し、地域みんなで作っていかって、子どもたちの学びと成長にかかわる！これこそが、学校を核とした地域づくりの目標とすべき力たち。地域と学校の関係については、一方的にやってあげるとか、やってもらう

という関係ではなく、お互いが相乗効果を求めるような関係作りが必要であると提言していました。

P T Aとして地域の関係者(自治会)を巻き込み、“地域の子供は地域で育てる”を連携し同じ目標の共有を持てるように！地域コミュニティの役割を知り、学校・P T A・地域(自治会)が共通の理解を持てるように働きかけていきたいです。

豊見城市P T A連合会

会長 木代 安恵

第6分科会

「子どもたちの豊かな未来への環境教育」と題して冒険家・登山家でもあるモンベル代表取締役会長の辰野勇氏に講話いただきました。人間が生きていく上で最も大きな力は集中力・持続力そして判断力であり、ご本人は、それらの力を大好きな登山を通して身に

つけてきたと話していました。

実践発表では佐渡市内の小中学校の総合的な学習の時間に行われている地域の自然環境を調べたり、伝統文化を学び、それを観光客などいろんな人に伝える活動を通して郷土愛を育んでいるという発表でした。

またトキの観察をする事で身近な自然環境や、それを支える人々との交流により自分の生まれ育った地域を大切に思う気持ちが大きくなったという報告もありました。外で遊ばなくなってきた子どもに対しては何事も経験が大事、大人が安全を確保しながらもある程度の危険なこともさせた方がいい。子どもの目線になり子どもを信じて黙って見守る事が大事なんだと。私たち大人も子どもと一緒に外に出て自然の中で五感を働かせて遊ぶ事が大切なのではないかと気づかされました。那覇市立 真和志小学校

教頭 松原 伸一

第5分科会

第5分科会では柏崎、刈羽地区の中学生がメディア

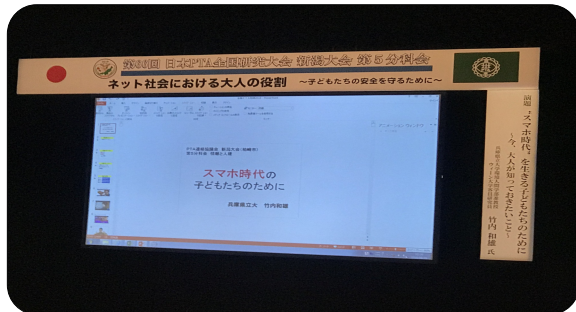
機器についての使い方、適切に判断して生活習慣やコミュニケーション能力を身に付けていくために、学校を超えて約2000名の生徒が集い「中学生メディア共同宣言書」を作成したものでした。また、大人も子どもたちの活動を聞き、ネット社会から子どもたちを守るために「大人のメディア共同宣言書」を作成し、これを中学生、大人のメディア共同宣言書を同時発表しました。この実践発表を聞き、子ども達に家庭でのメディア機器に対するルール作りは勿論ではあるが、押しつけのルールから入るのではなく子どもに聞いたり、一緒に考えたりすることの大切さ。また、子どもとともに親もルール作りをすることによって親子のコミュニ

ケーションがとれる大切さを再認識しました。

これからもネット時代はどんどん進んでいく中でネット社会に子どもたちが振り回されないように、我々大人は、現状を把握し保護者同士共有しながら勉強していくことが大切で大人自身がルールやマナーを守り、まずは子どもたちに大人が手本となるよう努めていきたいと感じさせられる分科会でした。

今帰仁村P T A連絡協議会

会長 仲里一真



パフォーマンスに感動 ありがとうを伝えたくて

日本P T A全国研究大会新潟大会全体会アトラクションで久須美三兄弟の書道パフォーマンスが披露されました。力強く書き上げた「米百俵」の書にとっても感動しました。パフォーマンスの後、会場外に久須美三兄弟がいて、声をかけご両親とも少し話をして名刺を頂きました。

沖縄に帰った後、あの子たちに何かしたいと考え、数日後沖縄からキーツマンゴーにメッセージを添えて三兄弟に送りました。後日、お父様から、手紙とお礼の品が届きました。手紙には三兄弟が全体会パフォーマンスに向けて日々、練習に打ち込んだ様子や直前に三男が急病で入院した事など、あの素晴らしかったパフォーマンスに至るまでを知る事ができ、改めて感動しました。また数日後には三兄弟それぞれから、お手紙が届きました。初めて見る緑色のマンゴーに驚いた事や家族みんなで食べた感想を送ってくれて、とても幸せな気持ちになりました。新潟大会に参加したことをきっかけに三兄弟の今後の活躍を楽しみに、そして素敵な思い出のひとつとなりました。

沖縄尚学高等学校附属中学校P T A 我如古 正樹



第26回

裏方一番

「元気に・楽しく・いつまでも」



西原南小学校で地域の方々を中心に校内の環境美化を主活動とするボランティアグループ「花＊花クラブ」があります。

メンバーは、代表である狩俣和子さんの呼びかけで集まった30代から80代までの幅広い年齢層の方々です。当初9名からスタートし、現在は常時6名が毎週金曜日の午前中「元気に・楽しく・いつまでも」をモットーに活動しています。今年で6年目を迎えたこの活動は、メンバーそれぞれが得意分野を活かし、校内美化、草刈り、清掃、木工、農業、電気・水道補修、ガーデニングに至るまでの作業をボランティアで行います。休憩時にはいつも門前のガジュマルの木の下に集まりみんなでおしゃべりをしているとの事。そこにはいつも同校の校長先生と教頭先生が顔をだし、ねぎらってくれてしば

らく談笑します。その対話の中から新しいアイデアが生まれ次の活動につながっていくそうです。「出来る時に、無理をしないのが長く続く秘訣」と代表の狩俣さんが話します。同グループは、この活動が評価され平成30年度中頭地区P T A定期総会において表彰されました。現役P T A会員も当グループの影響を受け「もっと校内をきれいにしよう」と奮起する契機となっているとのことで、P T A実践活動へも良い影響を与えてくれています。

広報委員 新垣早苗



第28回

我が校区の文化・歴史遺産紹介

強くたくましく「びろうの木」



中城村立津覇小学校、職員室前に一本の「ビロウの木」(沖縄方言名:クバの木)が立っています。この木には大変意義深い歴史が刻まれています。

昭和12年当時の校長先生が学校に植え、大きく成長しましたが、先の大戦で幹に砲弾を受け折損し大きく穴があいてしまっています。その後も傷を残しながらたくましく成長を続け、根株から数本の芽を出し、いつしか1本から4本になりました。ところが20

12年に襲来した台風により4本の内の3本が折れてしまいました。残った一本を大切に守るために地域の方が、倒れないようにしっかりと支えをつくってくれ、今なお強くたくましく生き、成長し続けています。本校の児童玄関に掲示されているパネルには「このビロウの木のように強く「生きぬくつは子」を願って」と題し、このビロウの木が津覇小学校の「体・知・徳」のシンボルであることを記しています。ビロウの木の前に設置されている石碑には「樹齢100年以上、ビロウの萌芽は珍しく、沖縄「ふるさと名木」に選定される。(平成14年卒業生)」と記されています。また津覇小学校P T Aにおいては4年前より、広報紙名を学校のシンボルであるこの木にちなんで「びろうの木」と変更し、強くたくましく精力的に活動を行っています。

広報委員 新垣早苗



快挙！！全国広報紙コンクールに3校入賞

全国小・中学校 P T A 広報紙コンクールの優秀作品が決定しました。今年の応募数は4934校（小学校3324校・中学校1607校）各地方協議会での第一次審査を通過した597校から、第二次審査・第三次審査を経て最終審査で P T A 広報紙の持つ目的・使命・記事・編集・レイアウト・見出しなどの評価が総合的に優れていた小学校22校・中学校22校の計44校の広報紙作品が受賞の栄誉に輝きました。

沖縄県からも小学校1校・中学校2校と計3校が佳作という素晴らしい結果を納めました。



佳作

小学校の部

那覇市立 真嘉比小学校 PTA 「まかんちゅ」

中学校の部

糸満市立 糸満中学校 PTA 「いちまん」

北谷町立 桑江中学校 PTA 「みいはま」



絵 ①

まず①の絵は、5年生の児童が宿泊学習で級友たちと少年自然の家で一泊したときの様子です。リュックサックをきちんと一列に並べて、スリッパや靴も揃えられており『頑張っているところ』がうかがえます。きっと、担任の話したことをしっかりと聞いてのことやお家でのことが身についているなど感心しきりです。子どもたちは、手を広げ和気あいあいの雰囲気表れています。

②の絵は3年生児童の素描。大好きな魚たちが水槽でなかよく暮らしている様子です。子どもの描く線の何と味わい深いこと。気持ちがあつと温かくなってくるのは、私だけでしょうか。

さて、どのご家庭にも、お子さんの絵や作文があるかと思いますが。お金では買えないものが世の中には沢山ありますが、子どもが自分の思いを込めて描いた絵もその一つになるでしょう。うるま市立宮森小学校

校長 玉那覇直美

木もれ陽

生き生きとした絵を描く子ども達

本校は、石川エンサー（エイサーではなくエンサー）や闘牛が有名なうるま市石川に立地した創立74年目の幼稚園児39名小学生412名の中規模校です。また、毎年6月30日に行われる宮森小ジェット機墜落事故慰霊祭に伴う平和集会では、児童会が中心となり千羽鶴をなかよし地蔵前に奉納しています。このなかよし地蔵の置かれている台座には2つの細長い花生けがあります。が、いつも、いつの間にか、子どもたちがそつと野の花を生けてくれます。このような、心温かい宮森小の子どもたちの描く絵を今回ご紹介したいと思います。



絵 ②

我が家の子育て

国頭地区PTA連合会 会長 稲嶺 一馬

「我が家の子育て」というテーマですが、子どもが小さい頃は可愛くて、なんでも素直に言うことを聞いてくれたのですが、成長していくにつれやってくるアレ。そう、反抗期。まあ、これは成長の過程で誰もが通る道。自分もきつとそうだっただろうなあと思いながら。しかし、日々葛藤と悩みの連続で、はつきり申し上げて、それができているのかどうか、というのが正直なところですよ（汗）おそらく、いろんな方から話を聞き、試行錯誤しながら子どもたちと接しているのは、我が家だけではないと思います。みな最初から親ではないわけですから、でも、子育てで気を付けていることといえば、ひとつは、個人を大事にする、ということでしょうか。子どもとはいえ、一人の人間であり、それぞれの考え方も成長するにつれ、変わってくると思います。親の価値観を押し付けるのではなく、自分の考えや思いを持ち、それをしっかりと伝え、親はそれを受け入れてあげる。もちろん、それが違う方向であれば、親の考えを伝え、修正をしていくことは必要だと思ひますし、怒るときは真剣に怒ります。もうひとつは、責任感を持ち、他人に迷惑をかけないということです。まだまだ成長の段階で、自己中心的な部分もあります。他人の痛みや苦しみを感ずること、周りに目を向けることで、一歩ずつ大人に向かっていくのかなと思ひています。最後に、「親（自分）育て」ですかね。学び合い、気づき合い、共有し合うことで、共に成長することができのかなと思ひています。まあ、全然まだまだですが（汗）きつと、子どもたちが親になった時、同じような話ができるようになるんではないかな。

それを期待して今を頑張るのみ！

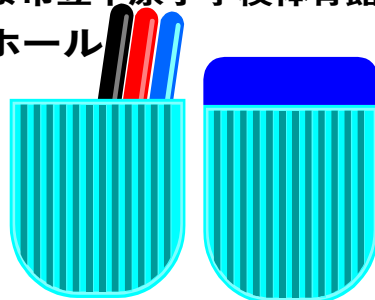


沖縄県PTA連合会70周年記念 第60回 沖縄県PTA研究大会 中頭大会へのご案内

「育ちあい・学びあい・支えあい」
中頭から今「あい（愛）」をひろげよう！
～家庭・学校・地域 P T Aがつなげるおおきなわ～
期日・会場 ☆ 平成31年1月20日（日）

第1分科会	組織・運営	読谷村立読谷中学校体育館
第2分科会	健全育成と地域連携	西原町立西原東小学校体育館
第3分科会	家庭教育	宜野湾市立中央公民館
第4分科会	教育問題	かでな文化センター
第5分科会	広報活動	北谷町立浜川小学校体育館
特別分科会1	人権（シンポジウム）	中城村立中城小学校体育館
特別分科会2	食育（シンポジウム）	うるま市立中原小学校体育館
全 体 会・・・・・・沖縄市民会館 大ホール		

ありがとうございます感謝の気持ち
「にへーでーびるの心」で
皆さまをお迎えいたします。
多数のご参加をいただきますよう
ご案内申し上げます。



平成30年度 第5回

理事会報告

日時・・・平成30年9月28日金曜日

(定数：26人中 出席18人 委任8人)

☆第69回童話・お話・意見発表大会
国頭大会について☆第60回県PTA研究大会
中頭大会について☆スマホおきなわ
ルールづくりについて

編集後記

今年度から広報委員として参加させていただくことになりました。初めての事ばかりで・・・いろんな方の力をお借りして頑張りたいと思います。宜しくお願いいたします。私がPTA活動に携わったきっかけは、小規模小学校にある「6年間で一度は役員をしましょう。」という方針で、息子が3年生のときに始めてPTA役員になりました。実は最初の希望は、PTA役員でも人気のある環境整備部でした。ところが広報部の人数が足りないということで、しぶしぶ変更したのが始まりで、早いもので広報部に所属してもう5年になります。今まで自分の考えていることを文字にすることはとても苦手な分野でした。唯一地域の情報に目を向けることは大好きで、それが講じて広報紙で学校・地域・PTA活動を発信する側となりました。この広報紙を通して沖縄県PTAのいろんな活動、情報など伝えられたらと思っています。



広報委員

知念 一美

広報委員：外間隆史（島尻） 新垣早苗（中頭）
奥間由紀江（中頭） 知念一美（那覇）
通信委員：仲間里枝（国頭） 砂川葉子（宮古）
鬚川美穂（八重山）

大人も得られる読み聞かせの効果！

平成30年9月28日（金）、県PTA母親委員会が初の試みとして、「読み聞かせに関する研修会」を行いました。出し物は、影絵、絵本読み聞かせ、わかるよね～メッセージの3つでした。



県PTA副会長の中沼さんは「影絵で使われた演題は、私の子どもが幼稚園生の頃、劇でやっていたことを思い出しウルっとしてしまいました。読み聞かせでは、話し方が上手

で絵本にすいこまれるように集中でき楽しめました。最後の字幕は、内容も良かったのですが「よく作ったなという面でも感心しました。」とコメントしました。また、今回の取り組みについて中頭地区母親代表の仲地真由美さんは、「母親委員会の話し合いで各学校の読み聞かせの取り組みに話が盛り上がり、本を読むだけではなく参加体験型の読み聞かせをやってみよう！という事になりました。今回母親委員の皆さんが大変興味を持ったのが影絵で、練習の時からまるで学園祭の準備をしている女学生のようにおしゃべりが止まらずとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。」

読み聞かせは子どもたちに大人が読んであげるだけではなく、大人が大人のために読んであげることによってリラックス効果や癒しの効果も得られると言います。それで今回は大切な話し合いの前に緊張した県PTA理事皆さんの脳内を活性化させてあげましょうと【県PTA母親委員劇団】を立ち上げました。脳がリラックス状態での話し合いはスムーズに運んだのではないかなと思います。又次の機会でも母親ならではのアイディアで皆さんを楽しませたいと思います」とのことでした。

家庭教育委員長 新垣 早苗

